

# 茅ヶ崎里山公園の里山をめぐる多様な価値観と合意形成

誌名	ランドスケープ研究
ISSN	13408984
著者名	倉本,宣
発行元	日本造園学会
巻/号	73巻3号
掲載ページ	p. 208-211
発行年月	2009年12月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat





度に追加開園が行われて開園面積が 19.8 ヘクタールとなり、平成 26 年度に 36.8 ヘクタールの公園として全面開園する予定である。

公園は山頂の村、子供の村、谷の村からなる。山頂の村にはパークセンター、湘南の丘、平成の森があり、子供の村には多目的広場、大規模なすべり台のある風の谷、風の広場があり、この 2 つの区域に大部分の利用者が訪れる。谷底部の谷の村には谷の家、里山保全エリアがある。現状では谷戸 1 個分を利用している都市公園である。

### 3. 協議会の運営のむづかしさ

1990 年代の初期に都立野川公園に協議会が設置された。野川公園は自然観察センターがあって事務所とボランティアが存在し、桜ヶ丘公園よりも複雑であった。その当時は、協議会さえあれば、情報の共有化がうまくいくようになって、問題が解決すると私は考えていた。

しかし、茅ヶ崎里山公園では 2002 年から協議会を重ねても、なかなか結論は出せないことがあった。それは、里山保全エリアについての問題が中心であり、その原因は構成団体の里山に対する考え方が異なっていたからである。

茅ヶ崎里山公園では現在、市民活動団体によって、公園利用者へのサービス活動、樹林地や谷戸低地の一部で管理活動や自然観察など、それぞれの目的で多くの市民が活動している<sup>1)</sup>。こうした状況を踏まえ、茅ヶ崎里山公園では、公園の里山環境を活かし、誰もが楽しく利用し、いろいろな活動のできる公園として、ふさわしい里山公園の管理運営、施設整備や利用のあり方等について協議し、かつ活動の実践を行うことを目的として、「茅ヶ崎里山公園協議会」が 2002 年 8 月に設置された。協議会は地元地域や現在里山公園で活動されている市民活動団体、体育関係や福祉関係からなる 12 団体と、公園の管理を行っている財団法人神奈川県公園協会、茅ヶ崎市、神奈川県の行政機関となっている。会員は、毎年 1 年間を通じて参加できる団体を年度末に募っている。協議会の開催日は原則として毎月 1 回、第 3 木曜日午後 6 時 30 分より午後 9 時、場所は小出地区コミュニティセンターである。構成団体は、小出地区自治会連合会、小出地区青少年育成推進協議会、里山保全ボランティア風の里、茅ヶ崎里山公園地権者会、茅ヶ崎里山公園地域連絡協議会、茅ヶ崎市体育協会、茅ヶ崎市体育指導委員協議会、茅ヶ崎野外自然史博物館、柳谷の自然に学ぶ会、小出小学校、茅ヶ崎里山公園倶楽部、茅ヶ崎市、(財)神奈川県公園協会、神奈川県藤沢土木事務所なぎさ港湾部長、事務局は神奈川県藤沢土木事務所なぎさ港湾部公園課、県立茅ヶ崎里山公園管理事務所である。

### 4. 専門家会議委員の立場

専門家会議は協議会にも参加している 3 団体の関係者と

外部の専門家によって構成され、2007 年度と 2008 年度に各 4 回、合計 8 回開催された。神奈川県との紹介と専門家会議における自己紹介に基づいて、委員の立場を以下に示す。  
A 委員(外部、里山環境の保全)：里山の絶滅危惧種の生態を研究している。職場で川崎市の北西に位置する黒川で、農場の建設を準備していて、里山を活かした地域づくりをやりたい。

B 委員(外部、里山環境の保全)：里山の生きものの研究者で、他の所に出かけて大学の研究をカバーするようにしている。  
C 委員(地域)：茅ヶ崎市の小出には 17 の自治会があって、その連合体の会長をしている。里山公園について私たちが考えているのは、大勢の人が一日楽しんで、ここへ来ていただく公園にしていきたい。今後は利用していただく方が喜んで帰ってもらい、またリピーターとしてさらに来ていただくような公園をめざしたい。

D 委員(地域)：小出は茅ヶ崎の中でも、自然、歴史、文化のある地域であり、里山公園でも自然だけではなく、文化や歴史も含めて総合的に活動したい。小出小学校としては、総合的な学習、あるいは 1～2 年生の遠足の時間に里山公園でいろいろな活動が行われている。これからも学校教育との接点などを探っていければよい。

E 委員(公園指定管理者)：指定管理者の財団法人神奈川県公園協会の職員である。

F 委員(公園管理者・公園事業者)：この公園も含め、海岸浸食や江ノ島ヨットハーバー、砂防林などを主として管理している。今回はみなさんのお知恵を拝借して、ぜひ、いい公園を早く開園したいと考えている。

G 委員(外部、ボランティアコーディネート)：久田緑地くらぶで活動している。今は久田緑地という大和市にある緑地の手入れや、地権者さんがほとんど 80 歳以上に高齢化しているので、農地の手伝いなどをやっている。

H 委員(外部、パークマネジメント)：公園緑地管理財団の公園管理運営研究所に所属している。鎌倉中央公園では市民の一人として活動しており、里山の環境というのが子供たちに体験を通して、生きる力を付けていけるということを実感している。

I 委員(地域、自然環境や生態の保全)：香川公民館という形で出席するが、私は元々茅ヶ崎生まれということもあって、ずっと茅ヶ崎の自然を見てきていて、特に芹沢とか北部地域についても 20 年以上自然環境の調査というか、観察に携わってきている。茅ヶ崎市が実施した自然環境評価調査で、里山公園、特に柳谷部分については、市内でも非常に限られてしまった豊かな自然が残っている場所であることが明らかになっている。公園ということなので、人間が主に利用するエリアと、自然のために大事にする部分というのを、協議会の方でもゾーニングされている。谷戸低地の部分はなるべく、昔からの谷戸の自然環境が残ってい

くように、よい形で整備してもらえたらよい。

K委員（外部、自然環境や生態の保全）：博物館の学芸員で、神奈川県動植物の調査や市民参加型の調査を行っている（第一回会議欠席のため、著者補筆）。

## 5. 専門家会議における合意形成

専門家会議における合意形成については、2年目の提言は内容が細かく大部なので、1年目の提言を参照していただくのがよいと考えられるので、以下に説明を加えながら引用する。まず、諮問の内容は、

「茅ヶ崎里山公園専門家会議」は、永続的な公共施設である県立都市公園として、茅ヶ崎里山公園がいかにあるべきか、次の二点について、神奈川県藤沢土木事務所長から諮問を受けました。

- 一. 県立茅ヶ崎里山公園として利用・保全のあるべき方向性
- 二. 一を継続的に実現するための方法

公園整備の経過については以下のように述べられている。特に、里山の具体的な保全イメージを共有し切れないことに注目していただきたい。

「平成5年に「湘南ウェルネス」をテーマとした都市公園として都市計画決定され、平成13年度に一部が開設されましたが、公園工事に対して様々な意見等が出されたため、地域や自然保護グループ、関係行政機関等で構成された「茅ヶ崎里山公園協議会」が平成14年度に設置されました。協議会では、公園の整備や管理運営などについて様々な意見交換や視察、勉強会などを行いながら、緩やかな合意形成を図り、議論の成果を施設整備や管理運営に反映させるなど、市民参加による公園づくりが進められてきました。平成17年度には市民と行政との協働により里山保全を実践し、里山文化を発信することを目的として公園利用者等の市民から成る「茅ヶ崎里山公園倶楽部」が発足し、農作業や樹林地管理等が行われてきました。しかしながら、本公園の核心部とも言える柳谷（※やなぎやと）をどのような方向性で、どのように守っていくかについては、里山という方向性では概ね一致しているものの、協議会構成員によって価値観や知見が様々であるため、たとえば、当公園内に生息する希少種を始めとした様々な生き物をどのように捉え、整理するかなど里山の具体的な保全イメージを共有し切れない状況にありました。」

こうした状況に対し、専門家会議としては以下のように課題を整理した。

「こうした状況を打開するために、神奈川県からの諮問を受け、現地を視察するとともに、公園を利用している市民グループ等からのヒアリング、資料提供などを通じて、これまでの公園の整備や管理運営の経緯と課題の把握に取り組みました。その結果、次の二点が本公園の課題である

と考えられました。

- ・本公園（特に柳谷）に係る様々な関係者の思いが強く、多様な価値観や知見の違いにより、公園全体として、どのような価値観を重視し、どのような方向性で具体的に管理運営していくべきかの合意形成が図られていないこと。

- ・通常の都市公園の維持管理とは異なり、里山保全には市民と行政による協働が必要不可欠であり、かつ生き物に係る不確実性があることから、関係者の意見をコーディネートし、公園利用と里山保全のバランスを取りながら、順応的な管理を実践していく仕組みが求められていること。

上記の課題を踏まえた上で、本公園の方向性を整理するため、これまでの協議会での議論を整理し、公園利用者や地域住民が本公園に対してどのような価値観やニーズを持っているのかを把握するアンケート調査や一年を通じての植物、両生・爬虫類、鳥類、昆虫類の生き物調査を実施しました。多くの市民がここで大切にしたいものとして、里山環境を挙げたアンケート調査結果にも示されたとおり、本公園の立地する小出地域の価値は人が昔から土地に対する様々な働きかけによって織り成され、育まれた生物多様性と里山（地域）文化であります。里山の多くが危機的な状況に置かれている中で、茅ヶ崎市北部に残る数少ない谷戸が都市公園として、永続的に残されることとなった意義は大きく、この地域の生物多様性や文化を含めた小出地域の潜在的価値が都市公園ならではの里山文化の継承、レクリエーション、環境教育（子ども達への原体験の提供を含め）と融合しながら発揮されるようにすることを、本公園の将来目標とすべきと考えます。そして、将来目標の実現のためには、従前の都市公園の管理運営ではあまり重視されてこなかった生き物にも配慮した柔軟で新たな管理運営の手法を確立することが必要になると考えます。現在、里山の価値を改めて見つめ直し、豊かな里山環境を取り戻すための市民参加による里山保全の取り組みが全国各地で始められていますが、本公園の管理運営の難しさは、ここに思いを寄せ、活動してきた自然保護グループと、地域の里山景観を守ってきた地域などの関係者の思いがそれぞれに強く、その思いを一つの方向に収めてきていないことではないかと考えられます。しかし、これは里山保全に必要な様々な市民の力が潜在的に存在していることを意味しているとも言えます。この専門家会議で提言する将来目標が本公園を育てる上でのバックボーンとなり、本公園に係る多様な一人一人の力が人と生き物の豊かで、にぎわいのある茅ヶ崎里山公園になるために有機的に活かされることを願って、茅ヶ崎里山公園専門家会議として、公園管理者である神奈川県藤沢土木事務所長に次のとおり、提言します。」

その結果、以下の提言をまとめている。

まず、里山文化の継承、生物多様性、環境教育、レクリエーションの4つの価値があげられている。本来、順位を

つけるという約束ではなかったが、この順に重視するような発言もあった。私はもともと生きもの屋であるから、とすれば、生物多様性を重視しがちになり、議論の進行をつかさどることがむずかしかった。特に、委員のなかで、生きものを重視した発言が続いた場合に、里山文化の継承の立場からその発言を遮ることが私にはできなかったので、議事の進行が停滞する場面もあった。

#### 「提言

1 茅ヶ崎里山公園はこの地域の潜在価値及び都市公園としての価値を最大限発揮するよう、里山（地域）文化の継承、生物多様性、環境教育、レクリエーションの4つの価値を重視し、人と大地のつながりがあり、人と生き物（命）のにぎわいのある茅ヶ崎里山公園を将来目標とすること。上記の将来目標を実現するために次の4点の基本方針を提案します。

- (1) 人と生きもののにぎわいのある里山を目指すために、田んぼ－畑－雑木林等のモザイク環境を用意すること
- (2) 樹林地については、現況植生を基本とした保全型活用を図ること
- (3) 谷戸低地については、多様な生き物が生息できるような複数の植生区分のある湿地として育成管理すること
- (4) 伝統的に里山を守ってきた技と文化の継承を目指すこと」

次に順応的管理について提案している。順応的管理は、従来の都市公園の管理運営とはかなり異なったものとして考えている。

「2 茅ヶ崎里山公園の将来目標である人と生き物（命）のにぎわいのある都市公園を実現するためには、従前の都市公園の管理運営にはない、新たな仕組みが必要になると考えられます。その仕組みとは、生き物の不確実性に鑑み、常に里山環境のモニタリングと管理方法及びその結果の検証を繰り返しながら、柔軟に管理方法にフィードバックするという順応的管理の仕組みであり、必要な次の機能の立ち上げの検討を進めること。

- (1) 人と生きもののにぎわいのある都市公園を目指すために必要な里山環境を捉えるための緩やかなモニタリングを指定管理者のコーディネートのもと、公園利用者や市民グループ等との連携により実施し、情報を一元的・統合的に収集・管理し、管理運営に活かすこと
- (2) 公園利用と生物多様性保全等とのバランスを図るため、指定管理者がコーディネーターを配置し、地域の専門家等の意見を聴きながら、核になって茅ヶ崎里山公園の管理運営をコーディネートすること
- (3) 豊かな里山環境を保全していくためには、地域、公園利用者、市民グループ、小学校などの教育機関等、多様な主体との連携が必要不可欠であり、公園利用と里山保全の価値観とルールの緩やかな共有を図ること

(4) 上記の3つの機能の立ち上げに当たっては、茅ヶ崎里山公園の管理運営に係る関係者が茅ヶ崎里山公園の将来目標や管理運営の在り方を共有するとともに、併せて、公園管理者・指定管理者の責務と役割と市民の役割が十分に認識されるよう留意すること」

(2)のコーディネーターについてはないものねだりのようなところがあって、提案することは容易であるものの実現はそのような人材を指定管理者が育成することなしには実現しないという指摘があった。

(3)の多様な主体の連携については、茅ヶ崎里山公園の特長であり、この特長を生かして行くことが可能な運営として公園利用と里山保全の価値観とルールの緩やかな共有が提案されている。

このようにして、茅ヶ崎里山公園の里山をめぐる価値観の整理と関係者間の緩やかな合意ができたものと考えている。

#### 6. おわりに

本報告は、里山をめぐる価値観の多様化に伴って、公園のあり方についての関係者の合意がむずかしくなった場合に、当事者に加えて、里山についての外部の専門家を加えて合意形成を図ることによって、緩やかな合意を見出した事例である。ここで、当事者に加えて、専門家の参加を求めたことは、合意を見出すためには有効であった。

一方、座長を担った私がときどき心の中で考えていたことは、専門家には専門の分野があり、真に公平に考えることはむずかしいのではないかということである。例えば、先に述べたように、私は里山の生きものを専門としているので、生物多様性に関心が高く、里山の景観には関心が高い。このように、専門家はその専門の分野に関心が高くなりがちであるから、里山全体に目配りの効く、広く里山問題に関するいわば「里山ジェネラリスト」のような職能の養成が急務であろう。

#### 引用文献

- 1) 神奈川県公園協会：神奈川県立茅ヶ崎里山公園  
<http://www.kanagawa-park.or.jp/satoyama/2009>  
年11月10日更新、11月15日閲覧
- 2) 倉本宣(2007)：生きものを持ち込まない、持ち出さない－生田緑地憲章：都市公園178、18-21
- 3) 桜ヶ丘公園雑木林ボランティア(1992-2001)：桜ヶ丘公園雑木林ボランティア活動記録集、東京都西部公園緑地事務所
- 4) 日向山うるわし会：川崎市多摩区市民健康の森一日向山うるわし会  
<http://homepage2.nifty.com./hinatayama-u/>  
2009年10月29日更新 11月15日閲覧